

令和6年7月12日

長与町議会 議長 安藤 克彦 様

産業文教常任委員会
委員長 中村 美穂

委員会調査報告書

令和6年1月4日派遣承認された調査事件について、会議規則第77条の規定により報告します。

1 調査日 令和6年1月22日（月）～1月24日（水）

2 調査場所および調査事件（所管事務調査）

日 時	視 察 先	調査項目
1月22日（月） 14時30分～16時00分	徳島県北島町	浄水場の共同整備について
1月23日（火） 10時00分～11時00分	徳島県神山町	サテライトオフィスについて
1月24日（水） 9時30分～11時00分	徳島県美馬市	サテライトオフィスについて

3 派遣委員

中村 美穂、堀 真、松林 敏、浦川 圭一、安部 都、山口 憲一郎、竹中 悟

4 調査結果

【委員長 中村 美穂】

[徳島県北島町]

人口 23,675人 10,341世帯 議員定数 13人

徳島県の北東部に位置し、地形は西高東低で山はなく、周囲を旧吉野川、今切川、鍋川が流れている。今切川流域一帯は豊富な伏流水と水陸の便に恵まれているため、各種工場が立地し、県下有数の工場地帯となっている。また、徳島市、鳴門市と隣接していて、近郊住宅地の機能も果たしている。

○浄水場の共同整備について

北島町水道事業は昭和28年1月30日に創設。人口の増加や大型ショッピングセンター、大病院、消防学校の建設など水事業の拡大は続き、令和5年3月31日現在、給水人口23,516人、給水戸数8,483戸、水道普及率は100%。

- ・鳴門市と北島町は、双方の浄水場で耐震性能に課題
- ・その対策として水道事業の広域化を検討

・将来にわたり安全・安心な水を安定供給することを目的に「鳴門市・北島町共同浄水場」を整備

・令和2年度に着手し、8年度の完成に向けて共同浄水場を建設中

〔事業概要〕

・鳴門市浄水場の用地に共同浄水場を新設

・北島町浄水場は、配水場として運用

・共同浄水場から北島町配水場には、河川横断施設を経由して送水

・新施設の共用開始後、両浄水場の廃止設備を順次撤去

〔共同浄水場とすることでのメリットとデメリット〕

メリット

・事業が国庫補助の対象（水道施設共同化事業）となり、財源が確保できたことにより、一般会計の実質的な負担額を約4割に抑える事ができた

・建設費の負担軽減、単独更新では工事費が約42億円必要なところ、共同整備することで約34億円に抑えられ、約8億円の削減効果が見込まれた

・施設能力の規模のスケールメリットが働くことから、修繕費や電力費などの維持管理費の負担軽減が期待できる

・浄水場が一つになることで、運転管理に必要な人員の合理的な配置が期待できる

・水道技術者間のノウハウや経験が共有され、技術水準の引き上げ効果が期待できる

デメリット

・事業に関する事項は、すべて市町間で協議し、合意の上で作業を進めていく必要があり、市町間でのすり合わせ等もあるため、決定まで時間を要する。単独事業より事務負担が大きくなる

〔資産の所有権の考え方〕

・鳴門市が有形固定資産として100%保有し、北島町は事業費の負担金を支払い、無形固定資産として使用权を持つ予定

[徳島県神山町]

人口 4,792人 2,417世帯 議員定数8人

徳島県東部に位置し、徳島市に隣接。町の中央を東西に鮎喰川が流れ、流域に農地と集落が点在する。約86%が山林で周囲を1,000メートル級の山々に囲まれている。

昭和30年に5村が合併し現在に至る。平成に合併を検討したが、単独行政を選択。主要産業は農業、林業である。

○サテライトオフィスについて

移住定住支援・空き家活用を初めとして、地域情報化基盤整備事業を活用し、2004年度光ファイバー網（広帯域インターネット）を整備。町内全世帯に引き込みし、テレビのアナログ放送から地上デジタル放送へ対応。都会と田舎の情報格差の解消。NPO法人グリーンバレーと共に2008年ウェブサイト「イン神山」を開設。総務省地域ICT利活用事業を活用。

2011年度サテライトオフィスの開設が進み、2024年1月までに24社（16社が現在も継続）が開設。2015年「WEEK神山」開所。サテライトオフィス体験宿（一般の宿泊も可能）開所。

サテライトオフィス等進出支援（補助制度）について、神山町が行う補助制度はない。

〔徳島県が行う補助制度〕

- ・わくわくスタートアップ支援補助金
- ・徳島県ふるさとクリエイティブ・SOHO事業者誘致事業補助金

〔サテライトオフィスがあることのメリットとデメリット〕

サテライトオフィスが地域の雇用につながっているということ、サテライトオフィスやその社員さん同士の交流による新しいアイデアの創出や、地域コミュニティの造成、定住につながることで、サービス事業者の増加など多くのメリットがあり、デメリットは現状感じていない。

〔徳島県美馬市〕

人口 26,967人 12,536世帯 議員定数 18人

2005（平成17）年3月1日、旧美馬郡内の脇町、美馬町、穴吹町、木屋平村が合併してできた、緑豊かで温暖な気候、数多くの文化財が残る情緒あふれるまち。脇町のうだつの町並みは、昭和63年に重要伝統的建造物群に選定され、文化財保護に努めるとともに、美馬市の代表的な観光地である。

○サテライトオフィスについて

美馬市の人口ビジョン、2060年に2万人の確保を目指すため、第2期美馬市まち・ひと・しごと創生総合戦略に移住・定住の促進と移住創業しやすい環境整備を図るため、サテライトオフィス誘致事業を行う。サテライトオフィス誘致延べ件数：18件（現在12件）

- ・利用要件を満たしていると、徳島県の補助金と美馬市の補助金が活用できる
- ・滞在型：常駐メンバーがおり、都市部の業務を地方で行う形態
- ・循環型：不定期で都市部から短期滞在で業務を行う形態
- ・地域交流センター「ミライズ」：国の地方創生テレワーク交付金を活用し、サテライトオフィスを誘致し、テレワーク促進施設【 】&Work（レンタルオフィス・コワーキングスペース）として整備。複合施設として市役所窓口、スーパーマーケット、図書館、保育所、子育て支援センター等が同居している
- ・古民家等を利活用したサテライトオフィス
- ・誘致促進のための体験施設「創～so～」体験施設の利用実績67件（平成27年～）

美馬市のサテライトオフィスの誘致支援業務を、G&Cコンサルティング株式会社が美馬市と共に行っている。

5 所見

【委員長 中村 美穂】

○徳島県北島町

鳴門市と北島町は浄水場の耐震性能に課題があり、浄水場の共同整備を行うことで事業が国庫補助の対象になり、一般会計の負担額を約4割に抑える事ができ、建設費の負担軽減では約8億円の削減効果が見込まれた。

浄水場が稼働してからも維持管理費や運転に必要な人員の合理的な配置が期待できる。ほとんどがメリットで、事業に関する協議がある場合は市町間でのすり合わせ等もあるため時間を要する事がデメリットと言える。実際に工事している現場も視察したが、住宅地に囲まれてい

る場所であったので、住民からの騒音問題も少しはあるのではないかと思われた。

本町も長崎市との新浄水場の共同整備を行うため、先進地である北島町に実際に行き調査できたことは有意義であった。

○徳島県神山町

サテライトオフィスの聖地と言われるくらい視察が多く、視察担当の鈴江 正典氏から説明を受けた。

神山アーティスト・イン・レジデンスとして海外からアーティストを招聘し、神山で作品づくりを行うことをきっかけに高齢化による人口減少を緩やかにするために、移住・定住の促進の一環としてサテライトオフィスの開設が始まった。NPOグリーンバレーと共に光ファイバー網の整備やサテライトオフィス体験宿を開所した。移住者は増えるものの、高齢化による人口減少は多くなり全体としては減少している。田舎であるが、徳島駅から1時間ほどの距離なので、車を利用できる人は自然との共存ができる場所である。神山町単独の補助はないが、まちの活性化につながっていると思った。

○徳島県美馬市

地域交流センターミライズは元商業施設を国の地方創生テレワーク交付金により、サテライトオフィスやテレワーク推進のためのレンタルオフィス・コワーキングスペースなどを整備。また、うだつの町並みは、古民家等を利用した店舗やサテライトオフィス、ゲストハウスなど地域の賑わいが生まれている。実際に昼食をいただいたイタリアンレストランは、おしゃれで観光客も多く訪れる場所だと思った。

本町にもサテライトオフィスはあるが、やはり宿泊するところがあること、コンサルティング会社がサポートしているような提案をしてもらえることが、人を呼び込む後押しになっていると感じた。住んでいる人にはわからない町の良さが、きっと本町にももっとあるのではないかと思う。

【副委員長 堀 真】

○徳島県北島町

本町が長崎市と浄水場の共同整備を新たに計画し、県内では初の事例となるため、先例のある徳島県北島町の浄水場を視察した。ちょうど浄水場施設の更新時期を迎え、現在は燃料高騰の影響も受けている。ごく当たり前の話かもしれないが、町独自ではなく市との共同整備で運営を行うことで建設コストと建設後のランニングコストが抑えられる最大のメリットを学んだ。コストだけでなく、稼働した時の騒音や臭いの問題も北島町はクリアしていると聞いた。安定した水の供給やコスト、水質を望むため、今後の動きも注視したい。

○徳島県神山町、徳島県美馬市

本町と同様に、他市町村も人口減少や若い世代の人口流出が問題となっているが、徳島県では県を挙げてサテライトオフィスを活用し、金銭等の補助も入れつつ企業を誘致する動きが全国で注目されている。ネットワーク環境も整っており、都心でなくても地方でもデータの送受信ができ、実際に企業誘致に成功した事例の美馬市、神山町を訪問した。

訪問した2市町は、本町よりも人口が少ないが土地が広く、雄大な面積を生かし自然と触れ合える位置にサテライトオフィスを建てている。ネットと自然の融合により、都心にはない働きを生み、実際に若手の雇用に成功していることに驚いた。私も東京からふるさとの長

与町に帰省した身だから自分の境遇と重ねて考えたが、ネット・雇用の場・買い物へのアクセスのしやすさは必ず必要な条件だと思った。2市町にはそれらの条件が備わっていた。

本町にも既にサテライトオフィスがあるが、現在の利用者数は少ないと聞く。利用者にとって魅力と感じてもらえるポイントはどこか、そういったところを丁寧に観察しながら、本町のサテライトオフィス事業に注視していきたい。

【委員 松林 敏】

○徳島県北島町

北島町では、現在建設中の鳴門市との共同浄水場について研修してきました。共同整備の費用の負担割合、出来上がった後の施設の運用管理費用の負担割合の考え方について、丁寧に説明していただきました。また、共同事業の補助金についての話は特に参考になりました。

この研修で得た知識を、長崎市との共同浄水場の整備に生かしていきたいと思います。

○徳島県神山町

神山町は全国的にも地方創生の聖地として有名な自治体であり、そのサテライトオフィスについての話を聞かせていただき、大変ありがたいと感じました。

始まりは本町にもある国際交流協会が、海外からのアーティストを招聘し神山町で作品づくりを行っていただくことから始まったようです。また、国際交流協会をNPOグリーンバレーへと体制を変え、移住交流支援センターを町から委託されたところから、空き家対策もあいまって、移住者が増えていく中でサテライトオフィスの誘致も始まっていったようです。

サテライトオフィス誘致を進めるときにも一般社団法人神山つなぐ公社という、行政と民間の協働で実現していくための組織を設立したそうです。行政だけでは実現が難しいことに対して、民間の力を活用し、柔軟に、スピーディーに行動した成功例であると感じました。

○徳島県美馬市

美馬市のサテライトオフィスの誘致の取り組みについては、民間のサテライトオフィス誘致支援業務を行っている会社を利用して進めているようです。うだつの町並みという観光資源と空き家を活用し、官民連携で企業誘致を進めているといった印象でした。

神山町と美馬市の2自治体を視察したうえで、長与町でサテライトオフィスの誘致を進めていくには、民間の力を活用していくことが必要であると感じました。

【委員 浦川 圭一】

○徳島県北島町

メリットについては、建設費の負担が軽減され、維持管理費についても修繕費や電力費などの負担が軽減され、また浄水場が一つになることで運転管理に必要な人員の合理的な配置が期待でき、水道技術者間の経験、ノウハウが共有され、技術水準の引き上げ効果が期待できることで、デメリットについては市町間での合意の上での取り組みが必要となるため、決定に時間を要するというところぐらいでメリットのほうが大きいとのことであった。

また、事業の実施については国庫補助の対象となり、補助率三分の一で三分の二の負担については起債を活用することで、その元利償還金に対して六割の交付税措置を受けることができ、実質的な負担を約四割に抑えることができたとのことでしたので、同行していた本町水道局職員に本町と長崎市との共同整備について確認したところ、ほぼ同じ条件で施工する予定でいる

とのことでした。

本町と長崎市との共同整備についても、一定のメリットが想定されることから、改めて共同整備の必要性を感じたところでした。

○徳島県神山町

4,792人、2,417世帯で行政面積173.3平方kmとのことで、本町と比較すると人口規模ではかなり小さく、面積においては約6倍程度の町で、2007年に移住交流支援センターを設置し、移住及び空き家対策に力を入れているとのことであった。

2011年に最初のサテライトオフィスが開設されて以来、2024年1月までに24社が進出し、16社が現在も継続しているとのことで、移住および空き家対策の産物なのかなと思った。また、2004年度に光ファイバー網（広帯域インターネット）の整備を行ったことが、多くのサテライトオフィスが開設された一因なのではないかと自分なりに感じた。

進出について、既存の空き家などが主な開設場所になるのかとの質問には、新築での開設は今のところないとのことで、定住促進とともに、空き家対策にも大きく貢献できているのだと感じた。

進出に関して町の助成などはほとんどなく、国、県の助成で対応しているとのことで、同様の条件で対応できるのであれば、本町でも取り組むことが必要なのかなと思った。

○徳島県美馬市

人口2万6,967人、世帯数1万2,536戸、面積367.14平方kmの市で、本町の約1.3倍の行政面積を擁する自治体である。

サテライトオフィス誘致の背景は、人口減少対策の一環として取り組んでいる。

市が抱える課題として、空き家空き店舗対策、うだつの町並みの観光客問題、事業の後継者問題などが挙げられ、mima チャレンジプロジェクトを発足し、都市部企業のサテライトオフィス進出を支援しているとのことであった。

うだつの町並みの中の古民家は、歴史的にも保存していくべきだと思うような建物で、そこを活用した事業推進などは、歴史的観光資源を抱えた街でしか行うことはできないと、羨ましくも感じた。

また、サテライトオフィス関連事業の核となる地域交流センター「ミライズ」については、大規模な施設で、撤退後の商業施設を市が買取り複合施設として市役所窓口、スーパーマーケット、図書館、保育所、子育て支援センターなどが同居している建物の2階部分を改修してサテライトオフィス誘致、テレワーク推進のためのレンタルオフィス・コワーキングスペースとして整備し、令和4年度から運営している、とのことであった、現地を見て感じたのは、立派な建物ですばらしい環境が整備されていると思った。

個人的な所見は、美馬市においては、未利用の歴史的建造物があり、市が所有する広大な未改修部分の床があったということが、官民協力してサテライトオフィス関連事業を推進するきっかけになったのかな、と思った、本町とはずいぶん成り立つ環境が違うのかな、とも思った。

最後に美馬市ほどの取り組みを行っても、人口減少対策にはつながっていないとのことが少々残念であった。

【委員 安部 都】

○徳島県北島町

北島町は、人口約2万3千人、約1万230世帯の町で、地形は西高東低で山はなく、豊富な伏流水と水陸の便に恵まれ各種工場が立地し、県下有数の工場地帯でした。徳島市、鳴門市と隣接し、近郊住宅地の機能も果たしていました。

今回、北島町と鳴門市との共同浄水場について視察しました。維持管理費は、修繕費や電力費など維持管理費の負担の軽減できること。委託業務費用の軽減が期待できること。単独で浄水場を更新するより、一つになることで、運転管理費に必要な人員の合理的配置が期待できること。技術水準の引き上げ効果が期待できることなどのメリットを伺いました。共同化のコスト削減は、約8億円が見込まれるということでした。デメリットは、単独事業よりも事務負担が大きくなることを除いて、メリットの方が大きいということでした。建設地は、住宅地にあることから、当初、建設工事の騒音があったということで、周辺住民からの苦情があったらしいのですが、現在は落ち着いていることから完成が待ち望まれています。

本町におきましても長崎市との共同浄水場が開始予定でありますので、規模の違いはあっても今後の参考となる視察でした。

○徳島県神山町

神山町は、人口4,777人、世帯数2,426世帯と大変こじんまりとした町であり、農地と集落が点在し、約86%が山林で周囲を1,000m級の山々に囲まれているとても静かな風光明媚な町でした。昭和30年に5村が合併し、現在に至るということです。四国八十八カ所で有名な文化があり、とても花々がきれいな、キャッチフレーズが、人も自然もあたたかい町、神山町と謳っているほど、阿波踊りやすだち生産量日本一の町でした。また、1999年度から神山アーティスト・イン・レジデンスを開始し、海外からのアーティストを呼び、空き家に居住してもらい神山で作品作りを行うなど、移住定住支援・空き家対策にも貢献していました。

高齢化対策として光ファイバー網の整備やプログラミング、ウェブデザイン、映像制作など地元雇用も生まれ、2024年までに24社が進出され、大変力を入れているところは素晴らしく、発想と雇用促進に、さまざまな取り組みに関心させられた次第です。2015年に「まちを将来世代につなぐプロジェクト」を策定、子育てを軸にした「集合住宅」開発などまちのリビングとして移住促進にも力を入れていました。今回の、とても画期的な若者世代を取り組むサテライトオフィス活用は、とても参考となるものでした。

○徳島県美馬市

美馬市は、その名も美しい「美しく駆ける馬」という町名通り、人通りを外れた町なかに入るとそれは古い軒先が並ぶ、とても由緒ある大変優雅な町並みが広がっていました。

また、まるで、タイムスリップした感覚に襲われるような、時間の流れを忘れるほどの旧家を再活用したサテライトオフィスでした。本町より人口も少なく、約2万7,000人、世帯数約1万2,000戸のうだつの町並みです。なんとと言っても、5年間続いている、軒先に飾られた華道家の假屋崎省吾さんの花一面の大きな作品には、目を奪われるほどの美しさがあり、うっとり眺めてしまうほどでした。夜は、ランタンのぼんやりとした風景に観光客を引き寄せる魅力が溢れていました。土日は観光客が多く、旧家を利用したパフェを提供する喫茶店は、約1,800万円の改造費を掛けてサテライトオフィスを開設したそうです。

美馬市では、①新しいひとの流れをつくること②若い世代の結婚・出産・子育ての希望をか

なえる移住・定住の促進と移住創業しやすい環境整備に力を入れていました。サテライトオフィス誘致は現在12件でありました。誘致のための県の補助事業を活用し、このような地元の事業者と連携し、さまざまな事業を実施する企業が多いという利点はうらやましいと思いました。

本町では、厳しい状況ですが工夫と知恵を絞り、サテライトオフィスのさらなる取り組みを研究し、町の発展に寄与するべき課題だと思いました。この度、視察・研修させていただいた徳島県の皆さまに感謝いたします。ありがとうございました。

【委員 山口 憲一郎】

○徳島県北島町

鳴門市と北島町は、双方の浄水場で老朽化や耐震性能に課題があり、水道事業の広域化について検討・協議を行い、水道事業の効率化を図るため、共同化の方向性について双方が合意し、平成29年5月に「鳴門市・北島町浄水場共同化に関する覚書」を締結。なお、2つの事業による浄水場の共同化の実施は、徳島県内で初めての取り組み。ここまで来るのにもものすごい努力、苦労があったことを町長から説明を受けた。

共同浄水場とすることでのメリットとデメリットに関しては、北島町での単独更新では工事費が約42億円必要なところ、約8億円の削減効果が見込まれた。事業に関する事項は合意の上で作業を進めていく必要があり、意見のすり合わせ等もあるため、どうしても決定まで時間を要した。また、単独事業よりも事務負担が大きくなったということであった。それ以外の部分ではデメリットは特になく、メリットの方が大きいと考えているとのことであった。本町においても、北島町を参考にすばらしい浄水場ができることを願っています。

○徳島県神山町、徳島県美馬市

両町とも誘致の方法は異なるところもあるが、行政の努力が、最初に出会った人・企業との素晴らしい出会いが、誘致の成功につながっていると感じた。

誘致の成功の要因として本町と両町を比較してみると、両町とも首都圏に近く、日帰りでも来ることができる。それと観光する場所も多いが、本町は観光の場所ないし道路網の利便性が悪い。そして、両町には古民家が多くいろんな面に利用されているが、本町は古民家はあるものの利用するには条件が合わない。このような両町の成功例を参考にしながら、本町においても考えていかなくてはならないのではと思った。

【委員 竹中 悟】

○徳島県北島町

もともと鳴門市、北島町浄水場は旧吉野川をはさんだ対岸に位置し類似した状況の中老朽化が進んでいた。建設費、維持管理費、の合理性の下2016年準備会を立ち上げ2017年覚書を締結基本的な事項の検討に入った。

基本コンセプトは災害に強い、効率性の高い、維持管理がしやすい、次世代に継承する浄水を目指す。整備方針としては施設能力、処理方式、配置計画、共同施設及び単独施設の区分、設計諸元。

また、共同化の効果と費用の負担については、工事費の負担、工事費、コスト削減効果、費用負担割合。事業方式の検討については、DB、DBO、PFIを基本として検証DB方式を採用した。概算事業費と財源計画については、国の補助制度等の活用を考えている。2026年の

供用を開始する一部組合の設置については、長与町、長崎市において必要性は感じている。

○徳島県神山町

自治体とサテライトオフィスの関わりについては、ふるさとを愛する1企業の構想から始まった。企業者は海外留学の経験があり個人の人脈を利用し、海外からのアーティストを集めNPO 法人を設立し神山町の知名度を高め、古民家を利用した移住政策も提言している。当地方は山深く神秘的な僻地であるが、行政担当者との緊密な連携で多くの問い合わせが来ている。行政もかなり力を入れている。やはり人と人の出会いを大切にし、多くの発想と情報を得ることは大切と感じた当地域は、すだち、神山杉の産地である。（事業内容は議会事務局で閲覧できます）

○徳島県美馬市

当町においては、GSC コンサルティングの専門的なアドバイスによって運営されている。もともと城下町であった街道沿の古民家を昔ながらの街並みに復元し、各地方から有名人を含め商店化している。特に脇町うだつの町並みが、全国的にも有名である。この町並みを利用し、サテライトオフィスの誘致を行政上げて取り組んでいる。また民間商業施設に図書館、支援センター、サテライトオフィスコア施設を複合的に設置し、無駄がなく住民の憩いの場所とショッピングのコラボで非常に合理的であると感じた。サテライトオフィス政策と企業誘致政策は、非常に緊密な関係にある。

最後に。我が町も政策の基本方針を明確に定め、民間の知恵も借りながら町の将来を考えるべきである。